

講義科目名称	英語コミュニケーション研究 V	副題	Analyzing the Organization of Social Interaction
英文科目名称	English Communication Studies V		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
荒野侑南			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目		
	☐ 実務経験のある教員による授業科目		
	☐ 実務家を招へいして実施する授業科目		
	実務経験・授業での活用、招へいする実務家等		
	授業で使用する言語		
	☐ 日本語		
	☒ 英語		
	☐ その他		
	アクティブラーニング		
	☒ アクティブラーニング要素を取り入れている		
授業の内容（概要）	エスノメソドロジー・会話分析のアイディアをもとに人と人の言葉によるやりとり（相互行為）の研究を行う。とくに「順番交替の組織」と「行為連鎖の組織」について扱い、日常会話を中心に授業場面などの制度的相互行為を観察する。授業形式は、反転授業の形式を取る。自宅で作習してきた新たな学習内容を課題シートなども利用しながら受講者相互で議論を行う。教員を含めた議論を行う。双方向あるいは多方向に行われる議論を通して内容を深く理解していく。		
授業の目的	このコースは、英語でのコミュニケーションに関する研究の基礎となる相互行為について議論を通して深く理解することを目的としている。国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に關与している。		
到達目標	(a)録音・録画されたデータの中から現象を特定し、(b)相互行為の参加者にとっての見通しのよい記述を行えるようになること、そして(c)それらを論理的にアウトプットできるようにすること		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	初回までに課題を提出してもらい、その検討を行います。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第2回	順番交替の組織(1)	
	順番交替の組織の概要を説明します。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第3回	課題の検討	
	第二回で出題された課題の検討を行います。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第4回	順番交替の組織(2)	
	順番交替の組織について議論を行います。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第5回	課題の検討	
	第四回で出題された課題の検討を行います。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第6回	順番交替の組織(3)	
	順番交替の組織について議論を行います。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第7回	課題の検討	
	第六回で出題された課題の検討を行います。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第8回	行為連鎖(1)	
	行為連鎖について議論します。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第9回	課題の検討	
	第八回で出題された課題の検討を行います。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第10回	行為連鎖(2)	
	行為連鎖について議論します。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第11回	課題の検討	
	第十回で出題された課題の検討を行います。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第12回	行為連鎖(3)	
	行為連鎖について議論します。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第13回	課題の検討	
	第十二回で出題された課題の検討を行います。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第14回	順番交替と行為連鎖	
	順番交替と行為連鎖についてのまとめを行います。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
	第15回	テスト	
	筆記試験を行います。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）		
テキスト	1. E. A. シェグロフ（西阪編・訳）『会話分析の方法』（世界思想社） 2. Sacks, H., Schegloff, E. A., & Jefferson, G. (1974). A simplest systematics for the organization of turn-taking for conversation. Language, 50(4), 696–735. https://doi.org/10.2307/412243		
テキスト購入方法	1. 現在版元で品切となっていますが、多くの大学図書館でeBookにアクセスできます。 2. インターネットで購入できます。		
参考文献	1. D. フォン・レーン（荒野ほか編・訳）『ハロルド・ガーフィンクル』（新曜社） 2. Schegloff, E. A., Ochs, E., & Thompson, S. A. (Eds.). (1996). Interaction and grammar. Cambridge University Press. https://doi.org/10.1017/CBO9780511620874		
成績評価の方法	課題50% テスト50%		
教員への連絡方法	メールにてご連絡ください。		
履修上の注意	テキストは1と2の両方をご準備ください。 初回の授業で事前課題を提出して頂きます。課題の検討を行うので履修予定者は必ず事前にご連絡ください。		
授業外学習情報（予習復習）	事前学習：テキストの予定箇所、参考文献について、事前にしっかり読み込んでおく。 事後学習：授業で学んだことを復習し、理解を深める。 1学期の授業外学習時間：合計60時間（1回の授業にあたり合計約4時間の予習・復習）		
学生へのメッセージ	毎回の授業で読書課題と分析課題が出ます。毎回の課題は必ず提出することが単位認定の必要条件です。		